あかしずみ

2025年2月
第758号

日本基督教団　平塚教会
発行人　平塚教会
編集人　中山洋司
〒254-0045　平塚市見附町6-18
電話　〇四六三（32）八八三一

苦しみを共にするのが家族です

平塚教会牧師　北川一明

私はお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。（エゼキエル三六・26）

私たちが死んだ後の永遠の命は、永遠に続く教会の業に参与していることで保証されています。ところが今、多くの教会が存続の危機に瀕しています。**「無事だ。安全だと言っている」**人には**「突然、破滅が襲**（テサロニケⅠ五・3）」います。平塚教会でも二〇二五年度の教会会計について、役員会ではこのままでは予算が立たないとの危機感をもって検討しています。私たちの永遠の命の危機です。

危機克服のあてがなければ対処する意欲が湧きません。ですが生き残る教会の少なくとも一つの姿は、世俗の成功例・失敗例を見ればある程度は分かります。ただ危機を克服する際にはある程度の**「産みの苦しみ…からは逃れられません**（同）」。

伝道が失敗したのは教会がサボっていたからではないでしょう。クチコミ中心の二〇世紀の伝道モデルが崩れたのです。自分の家族、知人・友人を教会に誘うのは一九六〇年代には自然のことでした。前世紀末頃から、誘っても家族には相手にされず、知人からは怪しまれるようになりました。教会に連れて来ても分かってもらえる気がせず誘いにくくなったのではないでしょうか。

新来会者の減少から、旧来の信仰教育モデルも崩れました。教会は今でも型どおりの信仰教育はしますが、信仰が身につくのは教会生活をする中で信徒間相互の、特に先輩信徒の指導の賜物でした。ところがうるさがられる気後れから指導を遠慮しているうちに、信仰理解のない人が強い発言をするようになったのが今世紀の教会です。

その結果二〇世紀の教会財政モデルが崩壊するのは必然です。永遠の教会の業に参与させていただいている、すなわち教会の財政に自分も責任の一端を担わせていただいているという喜びが受け継がれません。そうした教会も古い信徒さんが黙々と献げて何とか維持されています。高額献金者の声ばかりが大きいのは問

目　次

苦しみを共にするのが家族です　牧師 北川一明 …1
2024年12月22日クリスマス礼拝　記念写真1分前 …3
2024年クリスマス …4
編集後祈 …4

題ですが、教会に責任を負う気のない人の声が大きい教会はもっと不健全です。

こうした教会維持のために不利な要素は、ライフ・スタイルの変化が原因でしょう。しかし変化の中には有利な面もあります。世は、ますます宗教信仰を必要とするようになったからです。

有利な面を考えると、今までの伝道モデルがそのまま通用するものもあります。健康寿命が延びたのはたんに「暇な」時間が増えたのではありません。健康なお年寄りはご自身のこの世での意味を自問してます。しかし若いときに教会に誘われても相手にしなかった人たちは、今さら教会に行きたいとも言い出せません。こちらが強く誘えば「うるさく言われるから仕方ない」というポーズをとりながら、デートのつもりで内心喜々として来てくれます。

ただ、このクチコミモデルが通用するのは同年代の間です。世代を超えた伝道には今までの伝道モデルは当てはまりません。それでもキリスト教会に有利な変化もあります。

人が日本ユニセフ協会の募金やクラウド・ファンディング（ネットで不特定多数から少額ずつ資金を調達する仕組み）にお金を出すのは税金対策ではありません。善いことのために協力したいのです。ネット百科事典の「ウィキペディア」は記事を書く人が無償で詳細な情報を提供しています。社会が貧しかった頃人は衣食住を、それが満たされたら更にお金を集めることに注力しました。ところが今、何のためにお金を貯めているのか考える人たちが出て来ました。そして自分の意味や存在意義がほしくて無償の奉仕をするのです。

キリスト教会は世の中に対して善いことをしています。さらに神との関係で人の生きる意味を考えるのが教会です。情報を適切に提供すれば、協力しようという人が出てきて当然です。それには訴求対象は広く世に開かれていなければなりません。これからはインターネットの活用が伝道の中心になるのは当然です。

これまでの伝道モデル、信仰教育モデル、財政モデルでは先細りが見えています。役員会では危機を乗り越えるために諸案を検討しています。その方策として、コロナ禍で低調になった活動を活性化させる努力はすべきです。ただそれは旧来モデルでのテコ入れです。それだけでは世の変化に対応し切れません。

露骨に言えば「金さえあれば大丈夫」です。収入を得るには副業をすれば良いのです。しかし金を集めるための副業は、教会の本来の機能を失わせます。教会附属の教育施設なども、油断するとたんなる金づるになり、母体は金はあっても信仰のない教会になります。新しい伝道、教育、財政モデルを産み出する必要があります。

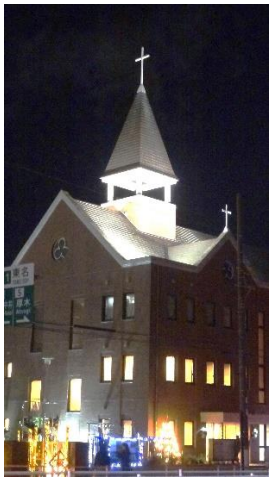
ところがモデルが変わると集まる人が変わります。情報の種類も質も変わります。すると教会の雰囲気も、今までの慣れ親しんだものから変わってしまうでしょう。その苦しみに耐えてください。永遠の命に参与するためには、雰囲気が変わるくらい何でもないはずです。むしろ自分が新たに若々しくされて行くということです。

…とは言うものの、慣れないことはおっくうでしょうか。それでも教会は信仰の家族の集まりで、家の危機が迫っているのです。産みの苦しみを共に味わってください。そうすれば自分が新しくされている喜びも共有できます。では、具体的にはどのようなビジョンが描けるでしょうか。

（次号につづく）

2024年12月22日クリスマス礼拝記念写真“1分前”

2024年クリスマス



燭火礼拝を迎えた教会

親子礼拝皆様による朗読生誕劇

祈りを捧げて

牧師先生に記念品贈呈

子どもたちも一緒に

今年度のクリスマスは、コロナ禍の中しばらく途絶えていた愛餐会が、皆様の奉仕により行われました。

愛餐会司会進行は青木恵美姉。鈴木勝姉の開会祈祷で始まりました。感謝を込めて北川牧師・奏楽奉仕者・説教題筆耕奉仕者にプレゼントが渡されました。

また、愛餐会には、教会学校の子ども達も共に参加し、朗読と歌によるイエス様の生誕劇を、お母様と一緒に披露してくださいました。

杉浦忠武兄の独唱

お話に花が咲きます

遠くは、倉敷市より西田直人兄が出席し、現在盆栽の修行に取り組んでいる話をされました。

高齢者プレゼントは、以前は80歳以上でしたが、あまりにも多いため（？）今年度は85歳以上となりました。グループ毎の紹介で「従来ならプレゼントをもらえる年齢ですが・・・」との話に笑いも誘いましたが、平塚教会の高齢化もかなり進んでいるのが現状です。

杉浦忠武兄の独唱、日下部明美姉指揮による全員合唱、そして食事をしながら和やかな歓談を通して、豊かな交わりの時を過ごすことができました。

宴の終りには、金子昭兄の閉会祈祷に合わせて皆で祈り、主の御降誕をお祝いし、感謝することができました。クリスマス委員会をはじめ、ご奉仕してくださいました皆様ありがとうございました。

【編集後祈】

今年で今世紀も四分の一が過ぎます。前世紀は、戦争の世紀と言われましたが、75年後、二十一世紀は平和の世紀と言われますようにと祈ります。

（編集子）